世界を繋ぐ大空と1羽の折り鶴

あの日、目の眩むような閃光が人と街を壊した。その光は黒い雫となって降り注ぎ、また人と街を壊した8月6日。
あれから80年、同じ空の下に私たちはいる。世界中のすべての夕焼け経験者へ
これは新たに建築を建てる提案ではない。たった1羽の折り鶴が空高く飛び上がったとき、世界を繋ぐ大きな空を狂おしいほどに
染めあげる。そして世界に架かった真っ赤な虹根は過去、現在、未来の街並み人々の暮らしを魅力的に照らし出すだろう。
夕焼けに照らされたヒロマの街の帰り道、いつもより笑顔溢れる人と街がそこにはあった。

コンセプト CONCEPT 資源へのアクセシビリティから考えるコモンズ

コモンズの最大原資である「資源へのアクセシビリティ」に注目。行き過ぎた資本主義の社会でも「過去・現在・未来」に渡って、「みんな の所有でもあり、貧富でもあり続けるであろう」2つの資源を選定した。

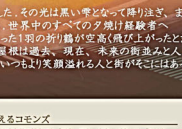
A 世界を繋ぐ大きな空（世界共有の資源）

「世界中を繋ぐ大きな空」は人類共有の財産であり、貧富である。そもな「空」という資源は太陽を照らしたのち、世界共有の「大きな屋根」として私たちの資金から奪うことを拒んでくれる。

B 世界中から届く折り鶴（世界共有の資源）

世界的な平和都市「ヒロシマ」には毎年世界中から一千万羽の千羽鶴が届けてくる。世界中の思いが込められた千羽鶴は、平和を願う世界中の人々の大切な資源である。

■折り鶴参加国マップ



年間一千万羽近く折り鶴が寄贈頂戴がくくしも鶴頂になっている。
そのため記年再利用の方法が多く検討されている。

A×B

世界共有の資源である「A 世界を繋ぐ大きな空」と「B 世界中から届く折り鶴」を使って、自らの手で夕焼け一晩ボ作をかく。「1羽の折り鶴」から小さな資源」から「空」という大きな資源」を使って、現代社会に新しいコモンズを体験するとと。
過去・現在・未来を色ち込んだ新しいランドスケープを生みだす。

提案 SUGGESTION 「世界を繋ぐ大きな空」を「世界から届いた折り鶴」で染め上げる

世界共有の資源である「空」に「折り鶴」を飛ばして、何度なく夕焼けを狂おしいほどに染めあげる。世界からヒロシマに届いた「折り鶴」を私たちの手で、空へ。
世界中の思いを羽衣のように纏った「折り鶴」は、あの日と同じように空という空を、どこか不安定で重たげな現代の世界を繋ぐ大きな空を、狂おしいほどに染めあげる。

夕焼けの大きな舞台が新たに誕生

夕焼は私たちの暮らしに、どこか懐かしさを喚起させるような、人類としての原初的魅力を秘めるような力がある。誰に生きるのか難しいこの時代に、こそ、高い空を夕焼けに染めたい。

ダイアグラム DIAGRAM 世界を巻き込む「最小最大のコモンズ」と「意識の中のコモンズ」

空と資を染めるために折り鶴から「想いの羽衣」を作り、空へ飛ばす「最小のコモンズ」。そして世界共有の空を染め上げ、資源から暮らしを「世界にかかる大きな屋根」で彩る「最大のコモンズ」。
この2つから「世界を繋ぐ資源の中のコモンズ」として、不安定な世界をコモンズ再構築によって変容させる。

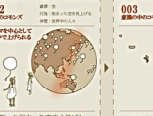
000

世界中の人々の想いが込められた「千羽鶴」がヒロシマに集まってくる。

001 最小のコモンズ

ヒロシマに集まる「折り鶴」を資源として、資産や文達と一緒に「想いの羽衣」を作る。

002 最大のコモンズ



「想いの羽衣」を空高く飛ばし、世界共有の資源「空」を染め上げる。空にかかった真っ赤な屋根が何度なく巻や暮らしを彩る。

003 意識の中のコモンズ

「想いの羽衣」にすきこんだ「カンナの花」が風に吹かれて、世界のどこかで芽を出す。

空と折り鶴という世界共有の資源によって、コモンズを形成しながら、
風に吹かれて新しかたかる種子が、世界中で意識の中のコモンズが構築される。

設計 DESIGN 夕焼けを染め上げる「想いの羽衣」の原理と設計

折り鶴を資源として私たちの手で作られる「想いの羽衣」は2つの要素から設計される。「飛行」「染める」「植生」を持ち合わせることで、最小のコモンズから、最大のコモンズを創り出し、
世界中に意識の中のコモンズを構築する

【想いの羽衣】
I 飛行
h≒32cm
t≒20cm
III 植生
カンナの花の種が
すきこんである
II 染める
一羽を染める為たが
30ml入っている
I 飛行
折り鶴 1羽 世界を資源として作っている
折り鶴を作ってその中に想いの羽衣を設置
海の匂いを嗅ぎ、大きな空を夕焼け色
折り鶴の羽衣を作る
折り鶴に塩を振りかけ、「想いの羽衣」を染める
制作
飛行
「想いの羽衣」をつくる
「想いの羽衣」を上げて夕焼けを染める
II 染める
「塩水による夕焼現象の強化」
【仕掛】太陽と地表の距離が短い
↓
青い光が散乱して、赤い光の割合が増える（＝夕焼け）
【夕方】太陽と地表の距離が短い
青い光が散乱されて、赤い光の割合が増える（＝夕焼け）
【海塩粒子】
【排気ガス】
【黒鉛】
大気中のエアロゾルの粒度が最も小さくなる。
とり青い光が散乱し、夕焼けの赤みが増す現象がある。
塩分の飛散
染める
「想いの羽衣」に塩を作
用をし、空から散乱されて
青い光を減衰する
塩を作上空で散乱を最大限が増す。
（＝青い光が多く散乱し、赤い光が多く
届くようにする）
III 植生
意識の中のコモンズを構築する
「カンナの花」
DATA
原産 …… 熱帯南米諸
タイプ …… 宿根草
特徴 …… 乾燥と熱に強い
花言葉 …… 永遠
混雑度の中で咲いた真っ赤な「カンナの花」は生き長生き希望を与える。
植物が生き生ムが
同じ空を共有する
世界のどこかに
種子に生涯は
上に乗る
世界に生カンナは
意識の中で世界を
繋ぐ
【夕焼】
【青空】
【黒鉛】
【海塩粒子】
【排気ガス】
【海塩】
【黒鉛】
【排気ガス】
【海塩】
【排気ガス】
【黒鉛】
【海塩】
【排気ガス】
【黒鉛】
【海塩】
【排気ガス】
【黒鉛